Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.), no.33, pp. 91-96, Mar. 2004

資　　料

ニホンオオカミの頭骨記録

Records of Skull Specimens of the Japanese Wolf

中村一恵

Kazue NAKAMURA

Keywords: the Japanese wolf, extinct, skull specimen

Ⅰ．はじめに

ニホンオオカミ (*Canis lupus hodophilax* Temminck, 1839) は日本列島の本土域に明治時代まで生息していたが、1905年（明治38）1月、アメリカ人マルコム・アンダーソン (Malcolm P.Anderson) によって奈良県東吉野村鷲家口で土地の猟師から買い取られた牡亜成獣 1 頭（Thomas, 1905, 英国自然史博物館所蔵標本）を最後に、標本に基づく確かな記録はなく、絶滅したと考えられている（日本哺乳類学会, 1997）。

その剥製は国内に 3 体、国外 2 体（うち仮剥製 1 体）の計 5 体があるだけであり（小原, 1984）、全身骨格になるとこれまで 1 体（独立行政法人国立科学博物館所蔵標本　以下科博）が残されていたにすぎない。この標本は当時の東京科学博物館（現科博）の倉庫内から発見され、斎藤(1938)によって報告された。近年になって第 2 体、第 3 体目に相当する骨格標本の産出が報告された。一つは、1976～77年に熊本県八代郡の京丈山洞穴から発見されていたほぼ全身骨格で、科博の全身骨格標本 (M100) との比較のもとに詳細に計測され、^{14}C法による年代測定が試みられた（北村ほか, 1999）。二つ目は、福島県郡山市の遺跡から発見されたもので、全身に近い骨格が発掘された。これは室町～戦国時代と推定されている前記洞穴産のニホンオオカミとほぼ同じ時代か、これよりもやや古いものと考えられている（茂原・江木, 2003）。

全身骨格は非常に少ないが、頭骨となると丹沢一帯だけでも20数点に及んでいる（中村, 1998）。これらの大部分は斎藤 (1938; 1954)、直良 (1965; 1972)、柳川 (1966)、梅澤 (1971)、小原 (1990)らの努力によって集録されてきた。

本稿は、これまで文献上で知られていた全国の中世以降の頭骨記録を整理し、今後のニホンオオカミ研究の参考に供することを目的とした。このような作業は本種の絶滅の過程を生物学的に、また社会環境の変化との関連から検討する上で不可欠と考えている。

Ⅱ．資料と調査方法

1. 頭骨標本の記録を所蔵先（個人と機関に区分）、性、産地、時代（捕獲年）、標本内容等について地域ごとに整理した。それぞれの項目についての記載は原則として報告者による報告時の記述に従った。

2. 頭骨は、ニホンオオカミ (*Canis lupus hodophilax*) を大陸産のオオカミ (*Canis lupus* ssp.) やイヌ (*Canis familiaris*) と識別する際に最も重要な骨格部位であり、また頭骨には性別、年齢の特徴がはっきり現われる可能性がある。頭蓋 (cranium) は頭蓋骨、下顎骨および舌骨から成り、通常頭骨 (skull) と呼ばれている（図1）。舌骨が残されることはほとんどない。標本内容については文献上の記載および図版から頭骨の保存状態を判断し、以下のように6段階に分けて表記した。

① 頭蓋の全部または一部と下顎骨の全部または一部の両方が残された標本（Skull と表記、図1）。
② 頭蓋の全部または一部だけが残され、下顎骨のない標本（Crani. と表記、図2）。
③ 下顎骨の全部または多くの部分が残された標本（Mand. と表記）。
④ 上顎吻部のごく一部が残され根付けなどに使用された標本（Max. par. と表記）。
⑤ 下顎骨のごく一部が残され根付けなどに使用された標本（Mand. par. と表記）。
⑥ 部位不明のもの（－と表記）。

中村一恵（Kazue Nakamura）
神奈川県立生命の星・地球博物館　〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, JAPAN

図1．神奈川県産ニホンオオカミの頭骨（表1. No. 40）.
①に該当する標本．上; 頭蓋，中; 右下顎骨（舌側），下; 左下顎骨（頬側）.
青木雄司氏撮影．

図2．静岡県産ニホンオオカミの頭骨（表1. No. 61）．②に該当する標本．下顎骨だけでなく脳頭蓋が欠損している．「憑き物落とし」として使われてきた．筆者撮影．

Ⅲ．結果と考察

表1に結果を示す。報告例のあった地域（表中[ ]は旧国名で報告されたもの）と例数は青森3、山形1、福島1、埼玉8、東京9、神奈川27、山梨2、長野4、石川1、福井2、静岡3、愛知4、三重1、奈良2、和歌山1、広島1、徳島1、愛媛1、高知1、大分2の75例で、他に県名不祥の1例（表1,No.71「四国」と記載）を加えると76例に達した。埼玉、東京、神奈川から多くの頭骨標本が報告され、とりわけ神奈川の例数が圧倒的に多い結果となった。ほとんどが個人所蔵である。

時代別の内訳は中世（室町時代）2例（表1. No. 1とNo.9）、近世（江戸時代）41例、近代（明治時代）9例、不明24例であった。中世産の頭骨はきわめて少ないと言える。2例とも室町時代末期とされるものである。長

表1．中世・近世・近代産ニホンオオカミの頭骨標本一覧

No.	個人/機関名	性/産地	時代（捕獲年）	標本内容	報告者
-東 北-					
青 森					
1.	個人	-［津軽］	天正年間(1573-91)頃	Skull	斎藤(1938)
2.	個人	-［津軽］	天明年間(1781-88)頃	Skull	斎藤(1938)
3.	函館図書館	-［津軽］	天明年間(1781-88)頃	Skull	斎藤(1938)
山 形					
4.	個人	-［羽前］	江戸時代中期以降	—	斎藤(1954)
福 島					
5.	個人	- 白河付近	江戸時代中期以降	Skull	斎藤(1938)
-関 東-					
埼 玉					
6.	個人	- 秩父郡三沢村	江戸時代末	Crani.	直良・小林(1960);直良(1965)
7.	個人	M 秩父郡野上町岩田	江戸時代末	Crani.	直良・小林(1960);直良(1965)
8.	個人	- 秩父郡高篠栃谷	江戸時代末	Max. par.	直良・小林(1960);直良(1965);直良(1997)
9.	個人	F 秩父市太田品沢	永禄年間(1558-1569)	Crani.	直良・小林(1960);直良(1965)
10.	個人	- 秩父郡小鹿野町	—	Mand. par.	直良(1965);直良(1997)
11.	個人	- 秩父郡大滝村三峰	—	Max. par.	直良(1965);直良(1997)
12.	個人	M 比企郡都幾川村	江戸時代末	Crani.	直良(1972)
13.	個人	- 秩父郡野上町風布	—	Max. par.	直良(1972)
東 京					
14.	個人	- 八王子在	江戸時代中期以降	Max. par.	斎藤(1938)
15.	個人	- 西多摩郡檜原村	明治5年(1872)	Max. par.	直良・小林(1960)
16.	個人	- 青梅市御岳大塚山	明治10年(1877)以前	Crani.	直良(1965)
17.	個人	M? 西多摩郡檜原村	江戸時代	Max. par.	直良(1965)
18.	個人	F 奥多摩御前山麓	—	Max. par.	直良(1965)
19.	個人	- 西多摩郡穂積町	文久3年(1863)以前	Mand.	直良(1972)
20.	個人	- 青梅市御岳山近傍	明治3年(1870)前後	Crani.	直良(1972)
21.	個人	- 青梅市平溝	—	Skull	直良(1972)
22.	科博M26696	- 奥多摩地区	—	Crani.	Endo et al. (1997);Endo(2000);吉田ほか(1999)
神 奈 川					
23.	個人	- 箱根山中	正徳年間(1711-15)	Skull	斎藤(1938)
24.	個人	- 厚木市近傍	天保13年(1842)頃	Crani.	直良(1965)
25.	個人	- 愛甲郡清川村金翅	江戸時代末	Crani.	直良(1965)
26.	個人	M 丹沢山中札掛	嘉永3年(1850)頃	Skull	直良(1965)
27.	個人	M 秦野市水無川中流	明治26年(1893)	Skull	直良(1965);柳川(1966)
28.	個人	M 秦野市戸川河原三屋	嘉永(1848-53)初年頃	Skull	直良(1965);柳川(1966)
29.	個人	- 中郡東秦野町	—	Mand.	直良(1965);柳川(1966)
30.	個人	- 秦野市菩堤	江戸時代末	Mand.	直良(1965)
31.	個人	F? 中郡西秦野町八沢	江戸時代末	Crani.	直良(1965);柳川(1966)
32.	個人	- 足柄上郡大野山	江戸時代末	Skull	直良(1965);直良(1972)
33.	個人	F 足柄上郡清水村付近	江戸時代中期	Skull	直良(1965)
34.	個人	M? 南足柄町関本	江戸時代末	Max. par.	直良(1965);田代(1989)
35.	個人	- 秦野市	—	Max. par.	直良(1972)
36.	個人	M? 秦野市	天保年間(1830-43)	Skull	直良(1972)
37.	個人	- 箱根?	江戸時代	Mand. par.	直良(1997)
38.	個人	- 丹沢	江戸時代末/明治初期?	Max. par.	直良(1997)
39.	個人	- 秦野市菩堤	—	Mand. par.	直良(1968);直良(1997)
40.	個人	M? 厚木市七沢	安政2年(1855)	Skull	小原(1990)
41.	個人	F? 丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
42.	個人	F? 丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
43.	個人	- 丹沢山地	明治26年(1893)頃	Crani.	小原(1990)

表１（続き）．中世・近世・近代産ニホンオオカミの頭骨標本一覧

44.	個人	M?	丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
45.	個人	-	丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
46.	個人	M?	丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
47.	個人	M?	丹沢山地	—	Crani.	小原(1990)
48.	科博M12919	-	中郡	—	Mand.	Endo(2000)
49.	科博M17267	-	箱根	—	Mand.	Endo(2000)
-甲 信 越-						
山 梨						
50.	個人	-	[甲斐]	江戸時代中期以降	—	斎藤(1954)
51.	個人	-	東山梨郡上黒平	明治12年(1879)頃	Skull	直良(1965)
長 野						
52.	個人	-	[信濃]	江戸時代中期以降	Crani.	斎藤(1938)
53.	上田高校	-	小県郡烏帽子岳山麓	明治15年(1882)頃	Skull	直良(1965);金森(1973)
54.	個人	-	下伊那郡竜江村	—	Max. par.	直良(1965);直良(1997)
55.	神社	-	下伊那郡天竜村	—	Skull	直良(1965);宮沢(1980;1994)
-北 陸-						
石 川						
56.	七尾高校?	M	能登	—	Skull	藤野(1975);小山(1989);相見(1999)
福 井						
57.	科博M1185	-	福井県	寛政12年(1800)頃	Skull	今泉(1970);小原(1990);Endo(2000) 吉田ほか(1999)
58.	個人	-	鯖江市近傍	—	Skull	八木(2001b)
-東 海-						
静 岡						
59.	個人	-	[遠江]	江戸時代	Skull	斎藤(1938)
60.	個人	F	駿東郡裾野村	元文2年(1737)	Skull	直良(1965)
61.	個人	-	阿部郡麻機村	—	Crani.	大村(1987);中村(未発表)
愛 知						
62.	個人	-	[西三河]	明和年間(1764~71)	Skull	斎藤(1938);平岩(1981)
63.	個人	-	[三河]	江戸時代中期以降	Skull	斎藤(1938)
64.	個人	-	[三河]	江戸時代中期以降	Skull	斎藤(1938)
65.	個人	-	[三河]	—	Max. par.	阿部(1937)
-近 畿-						
三 重						
66.	個人	-	[伊勢]	江戸時代中期以降	—	斎藤(1954)
奈 良						
67.	和歌大	?	吉野郡十津川村	明治36(1903)/37年?	Skull	宮本・牧(1983);小原(1990); 相見(1999)
68.	個人	M?	吉野郡十津川村武蔵	明治初年頃	Max. par.	直良(1997)
和 歌 山						
69.	個人	-	熊野地方	—	Mand. par.	直良(1997)
-中 国-						
広 島						
70.	寺	-	山県郡加計町近傍	江戸時代末	Skull	米田(1997)
-四 国-						
71.	個人	-	「四国」	江戸時代中期以降	Skull	斎藤(1938)
徳 島						
72.	徳島県博	-	美馬郡内	—	Skull	八木(2001a)
愛 媛						
73.	愛媛県博	M	松山市北梅本町	江戸時代後期~初期	Skull	小原(1990);相見(1999); 山本(2003)
高 知						
74.	個人	-	高岡郡仁淀村	天保8年(1837)	Skull	安部(2001);仁尾(2002)
-九 州-						
大 分						
75.	個人	-	九重町飯田高原近傍	江戸時代末頃	Mand. par.	高橋(1994)
76.	個人	-	九重町飯田高原近傍	江戸時代末頃	Mand. par.	小野・高橋(1999)

野の1例（表1．No. 55）は宮沢 (1994) によれば、室町時代の応永年間 (1349～1427) とされているが、事実とすれば例外的に古い。近世産の標本が圧倒的に多く、この時代との比較では近代産は非常に少ないと言えよう。

江戸時代は慶長8年 (1603) から慶応3年 (1867) までの265年間を指し、標本の多くがこの間に集中している。近世産が多いことは先に触れたが、斎藤 (1938)が指摘したように、江戸時代中期（1700年代）以降の捕獲例が最も多い。頭骨標本の多くがこの時代以降に集中していることは、江戸時代中期には全国的に山村地域で「狼信仰」が盛んとなり、末期頃には「お犬様信仰」が急速に発展したとする直良 (1968) の見解と符号する。多くの頭骨が「呪い」や「魔除け」として使用された（斎藤 ,1938; 直良 , 1965; 小原 , 1990）。頭骨または頭蓋同様、上顎吻部または下顎骨の一部で作られた根付けに相当する骨も「魔除け」、「憑き物落とし」として使用されていたと考えられている（直良 , 1997）。

①～⑤までの標本内容73例の内訳を表2に示す。

①に該当する標本は41.4%で最も高い値となったが、部位②～⑤では全体の58.8%を占め、標本の大半が不完全であることが示された。四分の一が下顎のない頭蓋（②）のみで26.0%を占めた。④と⑤は最も断片的で、全体の26.0%を占めた。それらのほとんどが根付け起源の標本である（直良, 1968; 1997）。

下顎骨は頭骨から容易に分離される。小原 (1990) によって最も近年に報告された丹沢7例のうち、6例までが頭蓋のみで下顎骨は残されていない。根付けは小さくて運びやすく、売買の対象となるケースもあり得ると考えられる。分布復元には根付けに相当するものを省くのが妥当であろう。事実、根付けの譲渡が行なわれていたことは直良(1997)の記述にある。

根付けとして使用されていた下顎骨は2例(表1, No.75, 76）確認されているが、九州からの江戸時代以降の頭骨（①または②に相当する標本）は、現在のところ発見例はないようである。冒頭に述べた八代郡泉村から発見された全身骨格は室町～戦国時代のものである（北村ほか, 1999）。中国地方における頭骨の確認は広島の1例のみであり、四国も少なく4例の報告しかない。その結果、全体の分布は東日本に偏っているが、東北地方からの報告例は少なく、また関東北部から三陸にかけての地域からの報告例はほとんどなかった。最も多くの標本が知られていた地域は東京・神奈川・埼玉で、44例（表1. No.6～No.49）に達し、全体の半数以上 (57.9 %) を占めた。

表2. 標本数(n=73)と標本内容の内訳

部　位	例数	割合（%）
① Skull	30	41.1
② Crani.	19	26.0
③ Mand.	5	6.8
④ Max. par.	13	17.8
⑤ Mand. par.	6	8.2

Ⅳ．おわりに

狼の民間信仰が幸いして、少なからず頭骨標本が残されてきた。その一方で、特殊な用途からそれらの大半は不完全な標本であり、1世紀以上の時間が経過しているだけに正確で詳細な捕獲歴を確認することは、現代に至ってはきわめて困難な状況にある。標本の産地および捕獲年についてもほとんどが伝承に基づくもので、直良 (1965) の指摘にあるように、オオカミ遺骸の発見地もしくは所蔵者の居住地域がただちに当該産地（捕獲地）と定めてしまうことには疑問が残る。性別に関しても明瞭に雌雄の判別された標本は非常に少ない。しかしながら、本種がすでに絶滅した現在では、これらの標本がニホンオオカミの系統を探る上で重要な資料となり得ることは論をまたない。

Ⅴ．謝辞

小原　巌、長岡郁生、樽　創の各氏は拙文をお読み下さり、適切なご指摘をいただいた。秦野ビジターセンターの青木雄司氏からは貴重な写真をご提供いただいた。奈良大学の高橋春成教授、静岡市立登呂博物館の大村和男氏、県立生命の星・地球博物館ライブラリー司書の篠崎淑子と工藤敦子の両氏並びに田代道彌氏と高桑正敏博士には文献蒐集に多大なご協力をいただいた。これらの皆さんに衷心より御礼申し上げる。

文献

安部みき子 , 2001. ニホンオオカミとモンゴルオオカミの頭骨について．1．ニホンオオカミとモンゴルオオカミの数量的比較の試み．フォレスト・コール , (8): 22-23.

Abe, Y. 1930. On the Corean and Japanese wolves. J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. B. Div. Vol.1, Art.2, 33-37, 4pls.

阿部余四男 , 1937. 神谷氏所蔵の山犬（日本狼）頭骨に就て．博物館研究 , 10(3): 5-7.

相見　満 , 1999. 絶滅したヤマイヌの研究．I.F.Report, (26): 40-53.

Endo, H. 2000. Catalogue of carnivora specimens. 93pp. National Science Museum, Tokyo.

Endo, H. ,I.Obara, T. Yoshida, M. Kurohmaru, Y. Hayashi, & N. Suzuki, 1997. Osteometrical and CT examination of the Japanese wolf skull. J. Vet. Med. Sci. **59**(7): 531-538.

藤野忠男 , 1975. ニホンオオカミの頭骨．採集と飼育 , **37**(6): 12-13.

平岩米吉 , 1981. 狼ーその生態と歴史ー．308pp. 池田書店 , 東京．

今泉吉典 , 1970. ニホンオオカミの系統的地位について．1. ニホンオオカミの標本．哺乳動物学雑誌 , **5**(1): 27-32.

仁尾かおり , 2002. ニホンオオカミ．高知県レッドデータブック［動物編］, pp.50-51. 高知県環境保全課．

金森正臣 , 1973. ニホンオオカミ頭骨の計測．日本哺乳類雑記第2集 , 97-98. 信州哺乳類研究会 , 松本市．

北村直司・小原　巌・南　雅代・中村俊夫 , 1999. 熊本県八代郡泉村京丈山洞穴より産出したニホンオオカミ全身骨格．熊本博物館報 , (11): 35-69.

小山　宏 , 1989. ニホンオオカミ．60pp. 渋川・北群馬郷土館 , 渋川市．

宮本典子・牧　岩男 , 1983. ニホンオオカミ剥製標本の改作と新しくとり出された頭骨について．和歌山大学教育学部紀要自然科学 , (32): 39-45.

宮沢　謙 , 1980. 日本オオカミの頭骨．自然研究紀要 , (3):

1-6. 下伊那教育会.
宮沢　謙, 1994. 伊奈谷のニホンオオカミーオカタの山の神と光前寺の早太郎ー. 伊奈谷の自然, (52): 5-7.
中村一恵, 1998. ニホンオオカミの分類に関する生物地理学的視点. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (27): 49-60.
直良信夫・小林茂, 1960. 秩父地方産オオカミの頭骨. 秩父自然科学博物館研究報告, (10): 1-16.
直良信夫, 1965. 日本産狼の研究. 290pp. 校倉書房, 東京.
直良信夫, 1968. 狩猟. 260pp. 法政大学出版局, 東京.
直良信夫, 1972. 古代遺跡発掘の脊椎動物遺体. 198pp. 校倉書房, 東京.
直良信夫［付記:春成秀爾］, 1997. 獣骨製根付け. 動物考古学, (8): 83-109.
日本哺乳類学会編, 1979. レッドデータ日本の哺乳類. 279pp. 文一総合出版, 東京.
小原　巌, 1984. 絶滅した日本のオオカミ. 動物と自然, **14**(11) : 2-6.
小原　巌, 1990. 神奈川県厚木市および愛甲郡清川村の民家に保存されているニホンオオカミの頭骨. 神奈川自然誌資料, (11)53-65.
大村和男, 1987. 山犬伝承とその民俗文化. 静岡の文化, (11): 34-37.
小野美喜夫・高橋信武, 1994. オオカミの根付け. 動物考古学, (13): 73-76.
斎藤　弘, 1938. 東京科学博物館倉庫内に発見せられたヤマイヌの全身骨格並に其他の同資料に就いて. 博物館研究, **11**(4): 2-7.
斎藤弘吉（弘）, 1954. *in* 斎藤, 1964. 日本の犬と狼, 217-228. 雪華社, 東京.
茂原信生・江木直子, 2002. 荒井猫田遺跡出土の中世ニホンオオカミの全身骨格. 荒井猫田遺跡（Ⅱ区）- 第 14 次発掘調査報告 -, 291-302. 郡山市教育委員会.
高橋信武, 1994. 大分県九重町飯田高原の鹿笛Ⅱ. 動物考古学, (3): 79-83.
田代道彌, 1989. 動物. 南足柄市史 1 資料編, 191-242. 南足柄市.
Thomas, 0. 1905. The Duke of Bedford's exploration in Eastern Asia.-1. list of mammals obtained Mr. M. P. Anderson in Japan. Proc. Zool. Soc. London, **2**: 331-363. pl.IX
梅澤英三, 1971. 狼に憑かれて. 10pp. 秦野郷土誌叢書別冊. 著者刊.
八木　博, 2001a. 徳島県立博物館蔵の Canis hodophilax 頭骨の計測値. CANIS, (5): 1-3.
八木　博, 2001b. 福井県鯖江市内の民家蔵, Canis hodophilax 頭骨の計測値. CANIS, (6): 1-4.
山本貴仁, 2001. 哺乳類. 愛媛県レッドデータブック, 31-37. 愛媛県自然保護課.
柳川定春, 1966. ニホンオオカミの頭骨. 秦野市文化財第 2 集, 10-12, 2tabs, 2pls. 秦野市教育委員会.
米田政明, 1997. ニホンオオカミの頭骨をめぐって. 加計町史 地誌編, pp.183-196.
吉田智洋・遠藤秀紀・九郎丸正道・林良博, 1999. ニホンオオカミとイヌに関する頭骨形態の三次元的鑑定. 哺乳類科学, **39**(2): 239-246.

摘　　要

中村一恵, 2004. 日本オオカミの頭骨記録. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (33): 91-96. (Nakamura, K., 2004. Records of Skull Specimens of the Japanese Wolf. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*, (33): 91-96.)

中世以降の日本本土域（本州・四国・九州）から知られていたニホンオオカミの頭骨標本を文献上の知見に基づいて整理した。その結果、報告例は 76 例に達した。それらの大部分は江戸時代中期以降のものと考えられ、明治時代産は少なかった。頭骨と頭蓋（根付けとして使用された標本を除く）に基づく分布は本州と四国に限られ、全体的に東日本に偏っていた。最も多くの標本が確認されていた地域は埼玉・東京の秩父・多摩一帯と神奈川の丹沢一帯であり、とくに後者の地域で顕著であった。分布に偏向があることについては、狼の関わる民間信仰等との関連で検討を要する問題である

（受付：2003 年 11 月 30 日；受理：2003 年 12 月 25 日.）